

科目名	子どもと健康			科目ナンバリング	511SC00100
担当者氏名	森田 恵子			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

当該科目では、領域「健康」の指導に関する、子どもの心身の発達や基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達の専門的事項についての知識を身につける。子どもの心身の健康状態を把握する方法、病気とその予防等の安全管理や安全教育、運動発達の理解をする。演習形式により、保育者としての、子どもの健康を守り育てるために必要な知識を身に付ける。

《テキスト》

『保育者をめざすあなたへー子どもと健康ー 第3版』 勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行編 みらい 2025年

《参考図書》

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領』、厚生労働省（2018）『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び解説書

《授業外学習》

・テキストを指定した範囲や配布資料は必ず通読してくる。健康的な基本的生活に関心をもち、指定した語句や項目について調べてくる。

《学習状況・理解度の確認》

・授業内課題として小レポートを提出し、返却し、授業の理解度を確認する。

《備考》

・科目担当者は、看護師・保健師であり、実務経験（臨床勤務歴あり）である。Children and Health ・グループワーク及びプレゼンテーション、フィールドワーク等を実施する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	・乳幼児期の心と身体、運動発達などの成長発達過程を理解すると同時に、健康課題を理解し、具体的な保育実践につながる基盤を築く
○	1-1 多様な他者を理解しようとする力	・乳幼児期の子どもの発達段階、健康状態や家庭環境等の多様な背景の理解と保育を通した人間関係の形成について理解する
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	・他者の理解と自己の価値観や判断や行動の傾向を理解し、建設的で発展的な人間関係の構築と課題解決に向けた責任と役割を思ふ力を身に付ける

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0%
小テスト	0%
レポート	0%
発表・実技	50%
授業内課題	50%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	子どもの健康とは 領域「健康」のねらい・内容	健康の定義、乳幼児期の健康の意義を理解する 領域「健康」のねらいと内容	保育内容におけるプリント・資料の復習	45分
2	子どもの身体を理解	子どもと大人の身体の違いを理解する	プリント・資料の復習	45分
3	子どもの身体を理解	子どもの成長発達の理解・幼児期の健康課題	プリント・資料の復習	45分
4	子どもの基本的生活習慣	基本的生活習慣の確立・自立の重要性（食事・排泄・睡眠）	プリント・資料の復習	45分
5	子どもの基本的生活習慣	基本的生活習慣の確立・自立の重要性（清潔・衣服の着脱・遊びと学習）	実践での学びの整理	45分
6	子どもの基本的生活習慣	基本的生活習慣の確立・自立の重要性（遊びと学習）	プリント・資料の復習	45分
7	安全保育と危機管理	子どもにおける安全保育と危機管理	プリント・資料の復習	45分
8	安全保育と危機管理	幼児期のけがの特徴や事故防止対策	プリント・資料の復習	45分
9	安全保育と危機管理	保育環境評価	フィールドワーク事後評価記録	60分
10	安全保育と危機管理	保育における感染症の予防と対応	プリント・資料の復習	45分
11	幼児期の運動発達と身体活動	乳幼児期の運動発達の特徴を理解する	プリント・資料の復習	45分
12	日常上生活における運動 遊びとしての運動	幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解する	プリント・資料の復習	45分
13	日常上生活における運動 遊びとしての運動	日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など、身体活動のあり方を説明できる	プリント・資料の復習	45分
14	日常上生活における運動 遊びとしての運動	日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など、身体活動のあり方を説明できる	プリント・資料の復習	45分
15	学習のまとめと振り返り	現在の子どもの健康課題と展望	プリント・資料の復習	45分

科目名	子どもと環境			科目ナンバリング	511SC00200
担当者氏名	中村 一美			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

現代の乳幼児期を取り巻く環境やその関りについて専門的事項を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。環境を通して乳幼児の発達に即した深い学びが実現する過程を実践事例から学ぶ。もの・人・自然・社会などの環境や環境の構成について興味関心を深め、指導場面を想定し、保育内容を構想する力や指導方法を身に付ける。

《テキスト》

実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法 小櫃智子 編著 わかば社

《参考図書》

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

《授業外学習》

幼児教育は「環境を通して行う教育」が基本である。環境に対する豊かな感受性が育まれるように、特に自然環境、またその他身の回りの環境にたえず関心をもち、領域「環境」への学びを深める。

《学習状況・理解度の確認》

身近な環境に興味関心が広がるように課題学修を実施する。実践事例を通して、ディスカッションやグループワークをし、他の学生の意見を聞いたり発表したりする中で考えを深めていく。

《備考》

・現代の乳幼児を取り巻く環境に興味関心をもち、日頃から情報収集に努める。 ・担当者は園長経験のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	社会は様々な人で構成されている（人種・男女・性格・大人・子どもなど）保育は他者の理解から始まることを学ぶ。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	保育士とは育児の専門家であり、そのための基礎知識や技術を身に付け実践の場で生かすことができるようになる。
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	育児の専門家として、実践を繰り返して習熟し、自己の力を高めていく。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法（%）	
試 験	50%
小テスト	0%
レポート	30%
発表・実技	0%
授業内課題	0%
その他（ ）	20%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	現代社会の幼児を取り巻く環境とその課題	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意味を理解する。	テキストP8～P11	45分
2	乳幼児の発達と環境	乳幼児期の発達における環境とのかかわり	保育所保育指針P110～117	45分
3	乳幼児期・児童期の認知的発達	乳幼児期・児童期の認知的発達の特徴	保育所保育指針P145～155	45分
4	乳幼児の物理的、数量、図形との関わり	乳幼児の物理的、数量、図形との関わりと、具体的な活動（おもちゃづくり等）	テキストP82～85	45分
5	乳幼児の自然との関わり①	乳幼児の自然との関わりと、具体的な活動（自然物の遊び等、簡単な飼育・栽培等）	テキストP60～P67	45分
6	乳幼児の自然との関わり②	乳幼児の自然との関わりと、具体的な活動（自然体験活動等）	テキストP70～P79	45分
7	乳幼児の標識・文字等との関わり	乳幼児を取り巻く標識・文字環境と、それに関わる具体的な活動（生活の中の標識・文字探し等）	テキストP94～P97	45分
8	学修の振り返りと確認	今までの学びを確認する。	テキストP8～P45	45分
9				45分
10				45分
11				45分
12				45分
13				45分
14				45分
15				90分

科目名	子どもと言葉			科目ナンバリング	511SC00300
担当者氏名	石堂 美紀代			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択	開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

領域「言葉」は子どもが豊かな言語や表現を身に付け、他者との関わりを楽しみ、喜びを広げるために必要な基礎的知識、技術を学ぶ。

子どもが年齢に応じた「言葉」を獲得する意義と機能を理解し、保育者として子どもの言葉を育むため視聴覚教材等ICTの活用や、手遊び・絵本・物語など実際に楽しい体験を理解し、保育への取り入れ方を具体的に学ぶ。

《テキスト》

指導法もいっしょに学ぶ保育内容「言葉」 浅井拓久也 編著
教育情報出版 2023年

《参考図書》

幼稚園教育要領解説 文部科学省 2018年 他適宜、授業内で紹介する。

《授業外学習》

子どもと関わる機会（特に担当者の勤務する子育て支援施設を訪問し、来所している親子に手遊びをしたり、絵本を読んだりする）を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について考えたり、発達について理解を深める。

《学習状況・理解度の確認》

授業内で質問する時間を持つ。レポートを提出させ、それについて意見を伝え理解の程度を知る。

《備考》

担当者は実務経験者（幼稚園・保育所・子育て支援施設で勤務）である。英語表記 Children and Language

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする保育実践を子どもの発達に合わせてできることを説明できる
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	子どもの発達における児童文化財の意義を理解し、技術を習得し、子どもの前でも表現できる
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	気持ちを表現する言葉が単語で片付けられている現状を振り返り、今まで以上に豊かな言葉を使う機会をとらえ、多世代や多国籍など多岐にわたる経験をもとに

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0%
小テスト	20%
レポート	50%
発表・実技	20%
授業内課題	10%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	領域「言葉」のねらいと内容について知る 担当者が勤務する子育て支援施設の事業内容、特に児童文化財を使った言葉の学びの様子をパワーポイントで見る	テキストを読む	45分
2	子どもと「言葉」の関係とは	「言葉」の意義や機能、保育との関係について学ぶ	テキストを読む	45分
3	子どもを取り巻く社会環境	現代社会の特徴や保育施設や家庭の役割を知る。	テキストを読む	45分
4	幼児教育とは	幼児教育の目的や育む資質や能力、五領域について学ぶ 小学校教育との接続のあり方について学ぶ	テキストを読む	45分
5	言葉の役割と機能	言葉の役割、伝達機能、思考機能、行動調整機能、話言葉 書き言葉について学ぶ	テキストを読む	45分
6	3歳未満児の言葉の発達の特徴	胎児から0，1，2歳児の言葉の発達の特徴を学ぶ	テキストを読む	45分
7	3歳児以上の言葉の発達の特徴	3，4，5歳児の言葉の発達の特徴を学ぶ	テキストを読む	45分
8	児童文化財とは	さまざまな児童文化財を知り、その目的と役割と子どもの言葉の育ちを考える	テキストを読む	45分
9	「手遊び」や「言葉遊び」を生かした指導法	手遊びや言葉遊びの目的、役割、特徴を知り、使い方や留意することを学ぶ	テキストを読む	45分
10	「手作りおもちゃ」を生かした指導法	おもちゃの目的、役割、特徴を知り、手作りおもちゃの作り方、使い方を学ぶ	手作りおもちゃを作る	60分
11	「絵本」を生かした指導法	絵本の目的、役割、特徴と知る。絵本の種類、読み方、留意事項を学ぶ	みんなに紹介したい絵本を読む	60分
12	言葉の発達を支えるために必要な保育者の援助①	保育者の言葉かけとは。子ども同士のかかわりから育つ言葉。遊びを通して育つ言葉。親子のコミュニケーションから育つ言葉について学ぶ	テキストを読む	45分
13	言葉の発達を支えるために必要な保育者の援助②	保育者の言葉の力を高める必要性 振り返り、職員会議、連絡帳等について学ぶ	テキストを読む	60分
14	言葉の発達に連れたみられる子どもや外国籍の子どもに対する支援	言葉の発達に関するさまざまな課題、症状、保育者の支援のあり方について学ぶ	テキストを読む	60分
15	学習のまとめと振り返り	授業の内容を振り返り、到達目標の達成度を確認する	テキスト・これまでの資料を読む	45分

《専門教育科目》

科目名	子どもと音楽表現			科目ナンバリング	511SC0041A
担当者氏名	崎元 りずみ			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必修	1	開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

幼児の感性や想像力を豊かにする音楽表現や楽器の特性を生かした音楽活動を学び、幼児期の音楽活動、表現活動を支援するための知識、技能を習得すると同時に自らもペアや少人数でアンサンブルを通して、音楽の楽しさを体験する。子どもの歌のレパートリーを増やす。

《授業外学習》

読譜については、各自毎日練習を継続すること。

《テキスト》

2訂版 心を育む子どもの歌 著作者 南曜子 今村方子 今川恭子 教育芸術社
1800円 定価（本体1800円＋消費税）

《学習状況・理解度の確認》

単元ごとに個別指導や小テストを行い定着を図る。また、発表の機会設ける。

《参考図書》

音楽を学ぶということ これから音楽を教える・学ぶ人ために
のために 教育芸術社

《備考》

演奏に不適切なネイル、爪等は、評価に反映する。担当者は音楽担当教諭とし小中学校勤務歴のある実務経験者。 Self-expression with Music for Children

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	①領域「表現」の内容を理解し、様々な音楽表現方法の知識・技能を身につける。
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	②わらべ歌や伝統的な音楽などに親しみ、表現活動に生かせるようにする。子どもの歌のレパートリーを増やす。
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	③色々な楽器の特性を生かした奏法や表現活動におけるの活用法、指導法を学ぶ。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	50%
小テスト	10%
レポート	
発表・実技	30%
授業内課題	10%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の概要についてのガイダンス 楽典基礎	楽典基礎復習(五線と鍵盤)	45分
2	わらべ歌と遊び歌	拍・拍子・身体表現 自然の中の音 イメージサウンド 2拍子・4拍子の曲	リズム・拍子	45分
3	ドレミで遊ぶ	音階と調 日本の音階と音楽	リズム・拍子 音階・調号	45分
4	リズムを楽しむ①	キッズドラムや小物打楽器を使用し、いろいろなリズム打ち 手作り楽器	リズム視唱 読譜	45分
5	リズムを楽しむ②	スキップやマーチ等、動きに合わせたリズム活動 小太鼓や大太鼓の奏法	リズム打ち 読譜	45分
6	リズムを楽しむ③	チャチャチャ、4ビート等、曲に合わせたリズム活動 合奏① 年齢別合奏指導法①	リズム打ち	45分
7	歌っておどって	身体表現を取り入れた歌唱表現 ボディパーカッション 3拍子・6拍子の曲・弱起の曲	複合拍子・混合拍子 弱起の曲	45分
8	楽器に親しむ①	鍵盤楽器、ラテン楽器を用いた活動 楽器の知識 合奏② 年齢別合奏指導法②	楽器の種類・奏法	45分
9	楽器に親しむ②	木琴・鉄琴 トーンチャイム等を用いた活動 合奏③	旋律視唱 歌唱曲練習	45分
10	アンサンブルをする①	ML機能を活用し、アンサンブルをする 鍵盤ハーモニカの奏法・指導法	各パートの譜読み 歌唱曲練習	45分
11	アンサンブルをする②	曲想を生かした器楽合奏の工夫	各パートの練習 歌唱曲練習	45分
12	お話しと音楽	紙芝居や絵本に音や音楽を工夫する グループアンサンブル	場面ごとの曲を練習	45分
13	音楽発表会を企画する	発表に向けての企画、準備の方法、内容構成を考える グループアンサンブル	発表内容を考える	45分
14	グループ発表をする	発表を通して、互いの表現の面白さを共有する	発表に向けての練習	45分
15	振り返り、まとめ	学修内容を振り返る	まとめ	60分

科目名	子どもと造形表現			科目ナンバリング	511SC0051A
担当者氏名	満田 知美			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必修	1	開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

本授業は、保育者として子どもの造形行為から発達の姿を理解し、子どもを取り巻くさまざまな環境が造形表現につながるような、基礎的な保育技術や知識を身につけることを目的としています。子どもの発達に応じた造形への関心を高める内容で進めていきます。

《授業外学習》

○小学校・中学校の「図画工作」や「美術」の教科書を振り返り、造形表現の多様さを確認する。○衣食住の中に、意識して興味のあるものを見つけ、それらを楽しむ。○美術館やギャラリーを訪ねて、さまざまな造形美術表現にふれ、感性を養う。○身の回りにある紙や箱、自然物などで手作りおもちゃを作り、自分の好きな素材や造形表現を見つけ出す。

《テキスト》

『造形表現・図画工作』磯部錦司編 建帛社、2019

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業ごとに、学修内容の確認と次回授業への準備・予習課題があります。作品や課題に対してはコメントや評価をして、必要な場合は再提出を求めます。

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』平成30年3月 『保育所保育指針解説』平成30年3月

《備考》

・グループワークやプレゼンテーションを行う際は、教室や場所の変更を行うことがあります。 ・ICT活用双方向型授業

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1 多様な他者を理解しようとする力	自分や他者の表現をありのままに受け止め、自らを振り返ることができる。
○	1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	様々な造形材料を用いて、自分を表現することができる。
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	乳幼児の表現の発達を理解し、保育実践に必要な表現技術を身に付ける。
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	身近にあるもので乳幼児にふさわしい表現を生み出すことができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0%
小テスト	0%
レポート	0%
発表・実技	30%
授業内課題	50%
その他（ ）	20%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の目的や進め方・評価方法、提出課題などを理解する。自己課題を確認する。	これからの生活の目標を考える	45分
2	創造的な生活を楽しむ	道具や材料の持ち運びに便利な布袋を自由にデザイン・制作し、生活の中の造形について学ぶ。	布袋の絵柄やデザインを考える	45分
3	色と形の基礎・基本①	保育者が身につけておきたい色や形の基礎・基本について学ぶ。	プリントを読む	45分
4	色と形の基礎・基本②	色や形の性質を実践的に体験しながら画面を作る。「静」と「動」、「明」と「暗」、「曲線」と「直線」など。	プリントを読む	45分
5	自分を知る・子どもを知る①	風景の絵を描いて、絵に表れることや絵の可能性について学ぶ。	幼稚園教育要領を読む	45分
6	自分を知る・子どもを知る②	子どもが描いた絵から、保育者に必要なことも理解について学ぶ。	子どもの絵の発達を調べる	45分
7	身のまわりにあるもので作る①自然物	自然物で、「顔」を作る。	自然物を集める	45分
8	身のまわりにあるもので作る②人工物	人工物で、おもちゃを作る。	人工物を集める	45分
9	プレゼントするものを作る①	プレゼントする人のことを考え、カードとプレゼントを計画する。	プレゼントするものを考える	45分
10	プレゼントするものを作る②	仕掛けのあるカードを作る。	カードの仕掛けを考える	45分
11	プレゼントするものを作る③	粘土でプレゼントするものを作る。	粘土のプレゼントを考える	45分
12	表現を豊かにする技法を学ぶ①	木をモチーフにして、クレヨンのいろいろな技法を学ぶ。	クレヨンの技法を調べる	45分
13	表現を豊かにする技法を学ぶ②	クレヨンと水彩絵具による技法を学ぶ。	絵具の使い方を確認する	45分
14	表現を豊かにする技法を学ぶ③	身の回りのものでいろいろなスタンプを作り、画面を作る。	スタンプの材料を集める	45分
15	まとめと作品発表会	授業の感想や振り返りを、自分が制作した作品をもちいて発表する。	発表の準備をする	45分

科目名	子どもと身体表現			科目ナンバリング	511SC0061B
担当者氏名	永井 夕起子			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必修	1	開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

子どもが体で表現することが心と体の発育発達に与える影響について学ぶ。幼児期の身体表現の特徴について理解し、発達に応じた活動や遊びの展開について考える。また、自分自身の身体についての理解を深め、感じたことを既成概念に捉われず自由に表現することのできる力を身につける。

《授業外学習》

- ・授業内容を振り返り、ノートにまとめる。
- ・キッズガーデンや学外の保育ボランティアに参加し、子どもの興味や動きの特徴について観察する機会をつくる。
- ・絵本や童話を読み、想像する習慣をもつ。

《テキスト》

テキストは使用しない。配布したプリントをまとめるファイルを用意すること。

《学習状況・理解度の確認》

- ・提出物にはコメントを付して返却する。
- ・分からないことはオフィスアワー等に質問を受け付ける。
- ・授業の到達目標に対しては、ルーブリックを用いて自己評価および講評する。

《参考図書》

『幼保連携型認定こども園教育・保育指導要領』文部科学省2017、『幼稚園教育要領』文部科学省2017、『保育所保育指針』厚生労働省2017

《備考》

対面の際は動きやすい服装で参加すること。「ICT活用双方向型授業」「グループワーク」Children and physical expression

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1 多様な他者を理解しようとする力	自分の中にあるイメージや思いを表現することのできる、さまざまな身体の動きを身につける。
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	遊びの計画・発表について振り返りシートを用いて自己評価し、達成度と課題を確認できる。
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	実践における自分の課題を明らかにし、改善するために必要な事柄を見出すことができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0%
小テスト	0%
レポート	30%
発表・実技	30%
授業内課題	40%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション：子どもの身体表現について	授業の概要と受講上の注意。デジタルデータの保存と提出方法の説明。	受講内容についてまとめる	45分
2	心と身体の結びつきを感じる	身体部位を認識する動き。身体知覚を刺激する遊び。	受講内容について復習する	45分
3	パディを組んで遊ぶ	2人組で行えるさまざまなふれあい遊びを体験する。発達における、ふれあい遊びの効果について理解する。	受講内容について復習する	45分
4	仲間づくりの遊び	自然と仲間がつけれる遊びを体験する。遊びを通じてコミュニケーションを取ることが、心や身体表現にもたらす影響について学ぶ。	受講内容について復習する	45分
5	仲間と協力して遊ぶ	複数人で力を合わせて遊ぶ。他者との力のやり取りを体験し、力加減を調節することや他者へ身を任せることと心身の発達との結びつきについて学ぶ。	受講内容について復習する	45分
6	道具を使った遊び①縄、フラフープ、棒	身近な遊具を利用した身体表現遊びを体験する。また、ねらいに合わせた遊び方を考案する。	受講内容について復習する	45分
7	道具を使った遊び②布、スカーフ	身近な遊具を利用した身体表現遊びを体験する。また、ねらいに合わせた遊び方を考案する。	受講内容について復習する	45分
8	道具を使った遊び②新聞紙、ビニール袋	身近な遊具を利用した身体表現遊びを体験する。また、ねらいに合わせた遊び方を考案する。	受講内容について復習する	45分
9	基本的なリズムステップの理解	全身運動における下肢の動きの重要性について理解する。基本ステップについて学ぶ。（情報機器の活用）	受講内容について復習する	45分
10	基本的なリズムステップの展開	さまざまなステップのダンスやゲームについて学ぶ。（情報機器の活用）	受講内容について復習する	45分
11	体や打楽器を使った遊び	ボディパーカッションを体験し、全身でリズムをつくることの心身への影響について学ぶ。遊びの展開方法について計画を立てる。	受講内容について復習する	45分
12	言葉とリズムの遊び	言葉のリズムと身体の動きを組み合わせる遊びを体験し、自分なりの表現を発表する。	受講内容について復習する	45分
13	影絵遊び	光（照明・プロジェクター）を使った表現遊びを体験する。光と影の関係を理解し、影の作品を作り発表する。	受講内容について復習する	45分
14	身体表現遊びの模擬保育	計画した遊びを発表する。遊びの方法や援助の仕方について評価する。	活動内容の記録と評価	45分
15	まとめ	模擬保育と授業全体を振り返り、身体表現遊びにおける援助や展開の方法に関する理解について確認する。	記録を振り返り自己評価する	45分

科目名	保育内容・表現			科目ナンバリング	511SC00700
担当者氏名	永井 夕起子			担 当 形 態	複担
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

領域「表現」のねらいや内容を踏まえて音楽、造形、言語、身体などの表現領域を総合的に学びながら、その指導法を修得し、保育の実践力へとつなげます。また、諸感覚を通した様々な表現活動を体験するなかで、表現することの喜びを味わうとともに、感性を磨き、表現力を向上させることを目的とします。

《テキスト》

池田裕恵・猪崎弥生編著『保育内容 表現 ― からだで感じる・表す・伝える』杏林書院、2019

《参考図書》

『幼稚園教育要領』文部科学省、2017 『保育所保育指針』厚生労働省、2017 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省、2017 秋田喜代美、三宅茂夫監修 浅野卓司編 『子どもの姿から始める領域・表現』みらい、2021

《授業外学習》

○日ごろから、耳を澄ましたり、じっくり見たり、身の回りの事象に対して感覚をひらき、感じ取るように心がけましょう。
○様々なジャンルのアートに触れ、楽しむことを心がけましょう。
○絵本や童話を読んで、想像力を働かせ、ファンタジーの世界を楽しみましょう。

《学習状況・理解度の確認》

・授業毎に振り返り課題があります。 ・課題や提出物にはコメントを付して返却します。

《備考》

・教室や場所を変更して行うことがあります。授業前にはmanaba等で確認してください。 ・体験的な学びが多くありますので、積極的な取り組みを期待します。（ICT双方向型授業）（グループワーク）

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	様々な表現活動において、感性を働かせながら、自分なりの表現の工夫をすることができる
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	総合的な表現活動の内容とその指導方法について理解し、発表することができる
○	1-1 多様な他者を理解しようとする力	その人なりのイメージや思い、表現方法があることを理解し、それらを尊重することができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0%
小テスト	15%
レポート	10%
発表・実技	20%
授業内課題	55%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 領域「表現」のねらいと内容	領域「表現」のねらいと内容について、子どもの表現として理解する	「表現」のねらいを理解する	45分
2	音集めと身体表現	身の回りにある物から音を集める。身体表現遊びへの展開を考える。	身体的・感覚的視点について学	45分
3	物語と身体表現	絵本のことばからオリジナルのムーブメントを創作して遊ぶ展開を考える。	実践の内容を考える	45分
4	素材と身体表現	生活廃材でモチーフを作る。身体表現遊びへの展開を考える。	実践を振り返る	45分
5	子どもの音楽表現について	人はどのように音楽を覚えるのか考え、乳幼児期における音楽表現について知識を深める。聴くことの大切さについて、サウンドスケープから学ぶ。	音や声・音楽的視点について学	45分
6	身近なものを使用する音楽表現	手拍子や手作り楽器を使用した音楽遊びの方法を学ぶ。	実践の内容を考える	45分
7	身体表現と音楽表現	0歳児から5歳児までの発達に適した音楽遊びを実践し、年齢の違いについて学ぶ。	実践を振り返る	45分
8	錯画期としての造形表現	体験が生む描画・造形 3歳児未満の造形表現について学ぶ。	造形的な視点について学ぶ	45分
9	象徴期としての造形表現	体験が生む描画・造形 4歳児の造形表現について学ぶ。	実践の内容を考える	45分
10	図式期としての造形表現	体験が生む描画・造形 5歳児の造形表現について学ぶ。	実践を振り返る	45分
11	総合的な表現活動を考える①	指導案の書き方について学び、作成する。	指導案の構想を練る	45分
12	総合的な表現活動を考える②	設定保育のためのチームに分かれ、準備を行う。	保育の準備を進める	45分
13	総合的な表現活動を考える③	設定保育のための準備とチェックを行う。	保育の準備を進める	45分
14	総合的な表現活動を考える④	設定保育の準備や、練習を行う。	練習を行う	45分
15	振り返りとまとめ	設定保育を行う。	実践と振り返り	45分

科目名	音楽Ⅱ			科目ナンバリング	511SC0091A
担当者氏名	井上 朋子			担 当 形 態	複担
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択	開講年次・開講期	1 年 ・ Ⅱ期

《授業の概要》

ピアノの個人レッスンと集団授業を行います。ピアノのレッスンでは、音楽Ⅰで取得したグレードを引き継ぎ、レパートリーを増やしながら、ピアノや弾き歌いの基礎技能をさらに高めます。集団授業では、弾き歌いに必要な歌の発生方法について学びます。また、幼児教育現場での音楽指導の場面も意識しながら演奏できることを目指します。

《テキスト》

音楽Ⅰと同じ。 個人個人の学習状況により使用楽譜は異なるが、ピアノが上達した場合は、バイエル→ブルグミュラー→ソナチネと進む（担当教員の指示を受けること）

《参考図書》

※歌の楽譜はどちらかを使用（担当教員の指示を受けること）①『音楽リズム幼児のうた楽譜集』東京書籍②『やさしく弾けるピアノ伴奏保育のうた12か月』新星出版社

《授業外学習》

- ピアノ曲、弾き歌い曲ともに、各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くしてレッスンを受けるようにすること。
- 弾き歌いは、幼児教育現場での歌唱指導の場面も意識しながら練習すること。
- 律動は、子どもたちの動きをイメージしながら練習すること。

《学習状況・理解度の確認》

毎回の個人レッスン及び中間発表の中で理解度を確認します。

《備考》

Music Ⅱ ICT双方向型授業です。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	保育現場の子どもたちの様子をイメージしながら、どのようなピアノや弾き歌いスキルが必要で、習得方法があるか考える。
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	バイエルが修了し、弾き歌いのレパートリーが20曲以上ある。
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	レッスンやグレード試験での自分の演奏を振り返り、技能や表現力をさらに高められるよう工夫して練習できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0%
小テスト	40%
レポート	0%
発表・実技	0%
授業内課題	10%
その他（ ）	50%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の説明、グレード試験の説明、担当教員との顔合わせ	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分
2	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン 【集団授業】呼吸と発声① 子どもの歌・春①	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分
3	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン 【集団授業】呼吸と発声② 子どもの歌・春②	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分
4	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン 【集団授業】発声と音域① 子どもの歌・夏①	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分
5	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン 【集団授業】発声と音域② 子どもの歌・夏②	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分
6	小テスト	第一回ピアノ、弾き歌いテスト	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分
7	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン 【集団授業】言葉とリズム 子どもの歌・秋①	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分
8	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン 【集団授業】豊かな表現① アカペラの練習①	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分
9	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン 【集団授業】豊かな表現② アカペラの練習②	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分
10	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン 【集団授業】合唱① 子どもの歌・秋②	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分
11	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン 【集団授業】合唱② 子どもの歌・秋③	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分
12	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン 【集団授業】アカペラの発表	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分
13	小テスト	第二回ピアノ、弾き歌いのテスト	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分
14	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン 【集団授業】子どもの歌・冬① 卒園①	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分
15	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン 【集団授業】子どもの歌・冬② 卒園②	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120分

科目名	子ども理解の理論と方法			科目ナンバリング	551110891A
担当者氏名	稲葉 小由紀			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択	開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

乳幼児期からの子どもたちが、大人をはじめとする周囲の環境との関わりの中で、どの様に発達していくのかを理解し、子どもの成長のプロセスを人間関係やコミュニケーション、そして認知など様々な側面から学ぶ。また、観察と記録の意義や目的に応じた観察法などの基礎的事項を学び、個と集団の関係をとらえたうえで、集団保育の計画を立てるための基礎理論を学ぶ。保護者の心情に寄り添う態度と基礎的な対応の方法を学ぶ。

《テキスト》

「実践につながる 新しい子ども理解と援助ーいま、ここに生きる子どもの育ちを見つめて」 大浦賢治 編著 ミネルヴァ書房 2022

《参考図書》

『やさしく学ぶ保育の心理学』浜崎隆司、田村隆宏、湯地宏樹編 ナカニシヤ出版 2020 『子どもの理解と援助』清水益治、森俊之編 中央法規 2019

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	子どもの発達について、人間関係や言語そして知力など様々な角度から捉えられるようになる。
○	1-1 多様な他者を理解しようとする力	特別な支援が必要な子どもたちへの支援の重要性について理解し、基本的な支援について学ぶ。
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	子どもの発達にとって大人をはじめとする周囲の環境との関わりがなぜ重要なのかを理解できるようになる。

《授業外学習》

参考図書として挙げた文献などを自ら進んで読むことを通じて、授業内容について理解を深めましょう。また、子どもと接する機会を増やし、実践を通して、授業内容を身につけましょう。

《学習状況・理解度の確認》

授業内で小テストや課題を実施し、実施内容は毎回提出する。翌授業日に評価した提出物を返却し解説する。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得てください。毎回の授業内課題の内容が特に重要です。専門性の高い保育者を育む授業ですので、積極的な受講態度が必要だということを理解してください。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	50%
小テスト	10%
レポート	
発表・実技	
授業内課題	40%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	子ども理解と援助の基本	保育者が抱える問題や求められることについて保育指針から読み解き、保育の専門家としての心構えや子どもの理解や援助に必要なことについて考える。	テストp2～P26の精読	45分
2	0歳児と1歳児の理解と援助	0歳児の前半と後半、1歳児に分けて、心理的発達の特徴を理解し、言葉と行動の発達および生活習慣の過程を知る	テキストP28～45の精読	45分
3	0歳児と1歳児の保育における養護と教育の視点	集団の中で育つ意義や遊びを通して発達していくことの大切さを理解し、遊びの場面での関わり方を学ぶ	テキストP46～56の精読	45分
4	2歳児と3歳児の理解と援助	自己主張の特徴を理解し、発達に合った関わり方や幼児の言葉や行動、生活習慣を考える	テキストP59～72の精読	45分
5	2歳児と3歳児の環境構成と保育の展開	自我の発達が著しい時期の子どもに合った環境作りや保育方法を事例を用いて考える。	テキストP73～80の精読	45分
6	4歳児からの理解と援助	現代の子どもたちの社会的環境を知り、4歳児における発達の変化を理解し、保育者としての関わりや援助の方法を考える。	テキストP81～93の精読	60分
7	5歳児から6歳児の理解と援助	自己の発達と様々な社会的感情の関係を理解し、この時期の子どもたちに合った関わりや言葉かけについて考える	テキストP94～101の精読	45分
8	保育の観察と記録1	保育における観察・評価の重要性と必要性について理解し、幼保小の連携につなげる大切さについて考える。	テキストP105～130の精読	45分
9	保育の観察と記録2	実際の記録の方法を学び、実践する。	テキストP105～130の精読	45分
10	発達障害児とその家庭支援1	発達障害児に関する考え方を保育指針から読み解き、発達障害の種類や特徴を知り、発達障害への理解を深める。	テキストP133～147の精読	45分
11	発達障害児とその家庭支援2	発達障害児本人だけでなく、保護者やきょうだいへの支援や就学に向けての課題や関連機関との連携について理解を深める。	テキストP148～155の精読	45分
12	外国にルーツをもつ子どもとその家庭支援	外国にルーツをもつ子どもたちの特性や抱えている問題について理解すること、保育指針などにある日本の国としての考え方や取り組みを知ること、保育場面での支援の仕方など多文化から学ぶ	テキストP157～183の精読	45分
13	外国にルーツをもつ子どもとその家庭支援2	外国にルーツをもつ子どもに対する言語的支援の方法について考える	テキストP168～174の精読	45分
14	保育における協働と連携	保育場面における協働、連携、保育者の役割を明確にし、地域の中で出会う他の職種の方との連携の必要性を理解し、その方法を知る。	テキストP185～204の精読	45分
15	保育場面で子どもを理解することの重要性	保育者は児だけでなく、保護者、地域、社会、文化を広く知り、大きな枠組みを理解しながら子どもに関わることの重要性についてまとめる。	テキストP205～210精読	45分

《専門教育科目》

科目名	教育・保育の計画と評価			科目ナンバリング	551110901A
担当者氏名	三宅 美由紀			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必修	2	開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育課程や全体的な計画、指導計画の作成について、その意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことができるように、基本的な知識を修得する。保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成について理解することを目的とする。さらに、保育をめぐる今日的課題をいろいろな方法で察知し、子どもや保育に関する様々な専門的知識を修得し保育の実践力を養う。

《テキスト》

『教育課程・保育の計画と評価』 著者 岩崎淳子、及川留美、粕谷亘正 2023年4月 萌文書林

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府 文部科学省 厚生労働省

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	教育課程・全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解し説明できる。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	主体的・創造的に自らの保育活動を計画・実施・評価・改善しようとする姿勢をもつ。
◎	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	社会的背景を理解し、子供の発達や身体状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。

《授業外学習》

○ 次回の授業範囲を予習しておくこと。特にテキストをよく読んでおくこと。
○ 適宜課題を出すので、その課題について深く考えたり調べたりしてまとめること。

《学習状況・理解度の確認》

・課題などの提出物は、コメントを付けて返却する。 ・毎授業の終わりに学んだことをまとめてmanabaに提出する。授業内容の理解度を確認し、次回の授業に反映させる。

《備考》

Curriculum planning ・幼稚園、保育所、認定こども園に関する情報を意識的に収集すること。 ・授業内で、グループワークを行いまとめを発表する。 ・担当者は、園長経験のある実務経験者である。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	50%
小テスト	0%
レポート	40%
発表・実技	10%
授業内課題	0%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の目的、内容、方法、評価について知る。保育とは何かについて考え、幼児時代を振り返ることで、授業への興味、関心、意欲をもつ。	テキスト p. 8～18通読	45分
2	保育の基本について	幼稚園や保育所等における保育と小学校における教育の違いについて学ぶ。	テキスト p. 19～36通読	45分
3	教育課程・全体的な計画と指導計画（1）	幼稚園の指導計画、保育所、幼保連携型認定こども園における全体的な計画とは何かを学ぶ。	教育課程、保育課程を調べる	60分
4	教育課程・全体的な計画と指導計画（2）	指導計画について基本的な考え方を理解する。	テキスト p. 37～46通読	45分
5	幼稚園の理解	幼稚園教育要領の内容に沿って、幼稚園の役割や幼稚園教育の基本について学ぶ。	テキスト p. 47～65通読	45分
6	幼稚園における教育課程と指導計画の実践	幼稚園の指導計画がどのような考えのもとに作成されているかを理解する。	テキスト p. 67～79通読	45分
7	保育所の理解	保育所保育指針の内容に沿って、保育所の役割や保育所保育の基本について学ぶ。	テキスト p. 80～99通読	45分
8	保育所における全体的な計画と保育の実践	指導計画がどのような考えのもとに作成されているかを理解する。	テキスト p. 100～128通読	45分
9	指導計画の作成の基本とその方法（1）	指導計画における記載項目やその内容、作成手順の基本について理解する。	さまざまな指導計画を収集	60分
10	指導計画の作成の基本とその方法（2）	指導計画におけるそれぞれの項目、その書き方についてグループワークを行う。	テキスト p. 129～136通読	45分
11	幼稚園、保育所の部分指導計画	幼稚園、保育所の部分指導計画の作成について学ぶ。	テキスト p. 137～144通読	75分
12	乳児、1・2歳児の特徴と指導計画	0歳、1歳、2歳児の特徴を理解し、子どもの姿を捉え、指導計画のねらい、内容を作成する。（グループワーク）	テキスト p. 145～152通読	45分
13	幼児の特徴と指導計画	3歳、4歳、5歳児の特徴を理解し、子どもの姿を捉え、指導計画のねらい、内容を作成する。（グループワーク）	テキスト p. 154～177通読	45分
14	保育の実践と評価	保育実践を振り返ることが、保育の質の向上につながることを理解し、幼稚園、保育所の全日の指導計画を作成する。（グループワーク）	これまでの授業内容の整理	60分
15	学修のまとめ	これまでの内容の振り返り全体講評（質疑応答を含む）を行う。	授業内容のまとめ	60分

《専門教育科目》					
科目名	特別支援教育 A			科目ナンバリング	5511109100
担当者氏名	杉田 律子			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期
					1 年 ・ II 期

《授業の概要》

1. 各障がいについてその症状と支援について学ぶ。

2. インクルーシブ保育・教育について学び、事例を通して理解を深める。

3. 母国語および貧困問題で配慮が必要な子どもの現状及び支援について学び、事例検討をする。

4. 関係機関との連携体制について学ぶ。

《テキスト》

小林徹、栗山宣夫編『ライフステージを見通した障害児保育・教育』みらい

《参考図書》

授業中、適宜紹介する。

《授業外学習》

・日頃から、街、公園、乗り物等々で見かける子どもや親子をよく観察してください。

・子どもに関する報道に意識をもって見聞きしてください。但し、不審者に間違われないようにしてください。

《学習状況・理解度の確認》

・毎回、授業の最初に復習を行いますので、授業開始までに復習をして下さい。 ・必要に応じて小テストや課題を実施します。

《備考》

実務経験：有 実務経験の内容： 神戸市総合児童センター療育部門発達クリニックにて、 発達障がい児への臨指導および保護者への教育相談業務に従事。

《授業の到達目標》		
ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	各障がい型についてその症状と支援について理解している。
		インクルーシブ保育・教育について理解している。
		母国語および貧困問題で配慮が必要な子どもの現状及び支援について理解している。
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	関係機関との連携、家庭への支援や連携についての概要を理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》	
評価方法(%)	
試 験	70%
小テスト	10%
レポート	
発表・実技	20%
授業内課題	0%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》				
週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 障がいとは	・授業をうけるにあたっての心構え ・障がいの概念について	障がいとは何かを振り返る	45分
2	障がいのある人の歩み	・発達と障がいと保育・教育 ・インクルーシブ保育・教育	授業ノート作成 子どもの報道を	45分
3	発達障がい①	・発達障がいとは ・自閉スペクトラム症の理解	授業ノート作成 子どもの報道を	45分
4	発達障がい②	・自閉スペクトラム症への支援	授業ノート作成 子どもの報道を	45分
5	発達障がい③	・注意欠如多動性障がいの理解	授業ノート作成 子どもの報道を	45分
6	発達障がい④	・注意欠如多動性障がい児への支援 ・学習障がい児の支援と理解	授業ノート作成 子どもの報道を	45分
7	知的障がい①	・知的障がいの理解	授業ノート作成 子どもの報道を	45分
8	知的障がい②	・知的障がい児への支援	授業ノート作成 子どもの報道を	45分
9	言語障害	・言語障がいの理解と支援	授業ノート作成 子どもの報道を	45分
10	障がい児の理解と援助①	・肢体不自由・聴覚障がい・視覚障がいの理解と支援	授業ノート作成 子どもの報道を	45分
11	障がい児の理解と援助② 病棟保育	・重症心身障がい児・病弱児の理解と支援 ・病棟保育について	授業ノート作成 子どもの報道を	45分
12	教育および保育現場における母国語の問題①	・母国語の問題で配慮が必要な子どもの現状と支援	授業ノート作成 子どもの報道を	45分
13	育及び保育現場における貧困の問題②	・貧困の問題で配慮が必要な子どもの現状と支援	授業ノート作成 子どもの報道を	45分
14	家族や関係機関との連携	・地域との連携 ・様々な機関との連携	授業ノート作成 子どもの報道を	45分
15	まとめ	・1回目から15回目までの学修内容のまとめ	授業ノート作成 子どもの報道を	45分

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育B			科目ナンバリング	5511109200
担当者氏名	杉田 律子			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択	開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

1. 各障がいについてその症状と支援について学ぶ。
2. インクルーシブ保育・教育について学び、事例を通して理解を深める。
3. 母国語および貧困問題で配慮が必要な子どもの現状及び支援について学び、事例検討をする。
4. 関係機関との連携体制について学ぶ。

《授業外学習》

- ・日頃から、街、公園、乗り物等々で見かける子どもや親子をよく観察してください。
- ・子どもに関する報道に意識をもって見聞きしてください。T但し、不審者に間違われないようにしてください。

《テキスト》

小林徹、栗山宣夫編『ライフステージを見通した障害児保育・教育』みらい

《学習状況・理解度の確認》

- ・毎回、授業の最初に復習を行いますので、授業開始までに復習をしてください。
- ・必要に応じて小テストや課題を実施します。
- ・講義内容に沿って、感覚あそびを考えておいてください。

《参考図書》

授業中、適宜紹介する。

《備考》

実務経験：有 実務経験の内容：神戸市総合児童センター療育部門発達クリニックにて、発達障がい児への臨指導および保護者への教育相談業務に従事

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1 多様な他者を理解しようとする力	特別支援教育コーディネーター、関係機関と連携しながら支援を構築する必要性を理解している
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	インクルーシブ教育・保育を理解している。
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	発達障がいおよび軽度知的障がいをはじめとする特別支援を必要とする子どもの支援方法について実践することができ
		気なる子どもの行動への対応について実践することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	70%
小テスト	10%
レポート	0%
発表・実技	20%
授業内課題	0%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 復習	・受講するにあたり心得 ・発達障がい者支援法およびDSM-5における発達障がい・自閉スペクトラム症、AD/HD、LDの特徴と支援の復習	障がいとは何かを振り返る	45分
2	発達障がいおよび軽度知的障がい児支援①	・インリアルアプローチについて ・応用行動分析について	インリアルアプローチ、応用行動	45分
3	発達障がいおよび軽度知的障がい児支援②	・TEACCHプログラムについて ・感覚統合療法について	TEACCHプログラム、感覚統合療	45分
4	発達障がいおよび軽度知的障がい児支援③	・触覚過敏の理解 ・触覚過敏改善の遊びの立案と発表	触覚過敏改善の遊びを考える	45分
5	発達障がいおよび軽度知的障がい児支援④	・前庭系、固有系の働きについて	前庭系、固有系の遊びを考える	45分
6	発達障がいおよび軽度知的障がい児支援⑤	・気になる子どもの行動 重力不安の理解 ・重力不安改善の遊びの立案と発表	重力不安改善の遊びを考える	45分
7	発達障がいおよび軽度知的障がい児支援⑥	・気になる子どもの行動 低反応 低緊張の理解 ・低反応 低緊張改善の遊びの立案と発表	低反応 低緊張改善の遊びを考	45分
8	発達障がいおよび軽度知的障がい児支援⑦	・ラテラルティと両側統合、ボディイメージなどの問題と改善の理解 ・遊び立案、発表	発表の修正	45分
9	発達に関して配慮が必要な子どもへの対応①	・パニック、落ち着きがない、言葉のおくれ	授業ノートを作成	45分
10	発達に関して配慮が必要な子どもへの対応②	・偏食、場所見知り、人見知りが強い、乱暴	授業ノートを作成	45分
11	個々の発達をうながす生活や遊びの環境 ①	・子どもにとって遊びとは何か	授業ノートを作成	45分
12	個々の発達をうながす生活や遊びの環境②	・子どもの自発性と子どもどうしのかかわりを広げる保育環境	授業より事例対応を考える	45分
13	発達に関して配慮が必要な子どもへの対応③	・インクルーシブ保育・教育の考え方と現状	実際に調べる	45分
14	特別支援教育・保育	・障がいのある子どもの就学先の理解と支援 ・配慮が必要な子どものめぐる現状と課題	授業ノートを作成	45分
15	まとめ	・第1回目から第14回目までのまとめ	これまでの授業内容を復習	45分

科目名	保育内容・人間関係			科目ナンバリング	55111A6200
担当者氏名	山村 けい子			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必選	0	・ 選択	開講年次・開講期
					1 年 ・ II 期

《授業の概要》

乳幼児は子どもの人間関係の基礎を作る重要な時期であり、その多くは、人との関わりの中で培われていく「生きる力」の基礎は、子ども自身の「人間関係」や子どもを取り巻く「人間関係」の中で自分からつかみとったり、教えられたりすることによって身についていくものである。乳幼児の様々な姿、活動から行動を分析し、心を読み取り、より良い援助ができる力をつけ、保育者が重要な役割を担う事の理解を深める。模擬保育実施。

《テキスト》

濱名浩編著『保育内容 人間関係[第2版]』（2018）みらい社 文部科学省『幼稚園教育要領』（2018）厚生労働省編『保育所保育指針解説書』（2018）他

《参考図書》

民秋言・小田豊他著（2019）『保育内容 人間関係』北大路書房佐藤真久・阿部治著（2012）『持続可能な開発のための教育ESD入門』筑波書房 松岡広路著『生涯学習の探究』学文社他

《授業外学習》

事前学習として教科書の指定箇所を予習しておく。授業後の復習で疑問点を質問できるように考える。保育雑誌、新聞等で社会情勢を知り、保育者としての資質を高めるようにする。ボランティア活動などに参加する。PBL学習も取り入れる。

《学習状況・理解度の確認》

グループで話し合い発表をする。・レポートは授業中に一緒に振り返りを行うか、コメントを付して返却する。・学習のまとめの後に振り返りを行い、理解度を確認する。ICT活用（同時双方向）

《備考》

授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は禁止。科目担当者は保育所（保育士）勤務経験のある実務経験者

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	幼稚園教育要領、保育所保育指針等の解説を熟読し理解する。乳幼児の良き支援者になるために積極的に関わる。
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	様々な子どもの姿、事例から保育者としての言葉がけ、支援、援助を学び、課題を見つける。
○	2-2 自ら課題を解決しようとする力	高齢者を始め地域の人々、多文化など自分の生活に関係の深いいろいろな人を理解し、課題に対して向き合う。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	60%
小テスト	0%
レポート	15%
発表・実技	10%
授業内課題	10%
その他（ ）	5%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「ねらい」「内容」を理解する。PBL学習も取り入れる。	保育所保育指針等	60分
2	領域「人間関係」のねらいと内容及び配慮事項	未来の社会を生きる子どもたちに求められる幼児教育と「人間関係」、幼児を取り巻く現代課題等を理解する。	テキストp. 10～p. 39	60分
3	子どもの人間関係をめぐる課題と将来像	少子高齢社会における子どもの行方、多様化する家族形態が抱える諸問題と子育て支援について学ぶ。	テキストp. 40～p. 50	60分
4	持続可能な開発のための教育(ESD)多文化保育等	文部科学省による「2030年の社会と子供たちの未来」ユネスコが提唱する「ESD」を学び理解する。	テキストp. 48資料等	60分
5	子どもの人間関係①ーおおむね0歳から3歳未満ー	愛着と信頼関係の形成、人間関係の発達と情緒の安定、自我の発達を学び、乳児期を理解をする。	テキストp. 51～p. 73	60分
6	子どもの人間関係②ーおおむね3歳以上ー	他者への意識と協同での生活や活動、自律の芽生え、道徳性、規範意識の芽生え等から幼児期を理解する。	テキストp. 74～p. 87	60分
7	遊びと人間関係の発達	乳児、幼児と発達にあわせたふれあい遊び、集団あそび等を調べ、考えて実践をし、説明をすることができる。（模擬保育・指導案作成）	テキストp. 86～p. 92	60分
8	保育者に求められるもの	「育ての心」、「共に育ち育て合う心」、専門性としての実践思考、人間関係を育てる実践の原理を学ぶ。	テキストp. 93～p. 107	60分
9	保育者に求められる援助の視点①ー自立に向けてー	年齢別にみる援助の視点、共振的関係の構築、遊びや活動をやり遂げる（合意形成）について学ぶ。	テキストp. 113～p. 135	60分
10	保育者に求められる援助の視点②ー協同に向けてー	友だちと共感する、協同する経験、規範意識、非認知能力等を学ぶ、地域の人々との関わりを理解する。PBL学習	テキストp. 136～p. 171	60分
11	保育場面での気になる子どもへのかかわり	子どもの多様さ、障害児、ジェンダー、多様な文化的背景を持つ乳幼児の保育等を理解する。	テキストp. 172～p. 181	60分
12	親の思いと家庭とのかかわりー子育て支援の視点ー	親の思いを理解しつつ共に子どもを育てていくにはどのような観点でどう取り組んでいったよいかという視点を理解する。	テキストp. 182～p. 197	60分
13	地域子育て支援とは何か	人間関係の育ちを図る地域子育て支援の実際と人間関係の育ちを図る地域子育て支援の担い手で期待される役割を説明することができる。	参考図書・資料	60分
14	これからの地域子育て支援ー支援から協働へー	これからの地域子育て支援の「支援」から「協働」について理解する。PBL学習。	参考図書・資料	60分
15	学修のまとめ	学修の振り返りをして、自己評価と理解度を確認する。得られた学習内容と知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。	参考図書・資料	60分

科目名	保育内容・言葉			科目ナンバリング	55111A6400
担当者氏名	石川 恵美			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必選	0 ・ 選択	開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

言葉の機能と、乳幼児期の言葉の獲得のプロセスを学ぶ。
乳幼児は、日常生活の中で、人との関わりを通して言葉を獲得する。
また、言葉を使って物を認識し、想像力や創造力が育つ。その指導方法や、子どもの「言葉」の引き出し方について具体的に学ぶ。
視聴覚教材等ICTを活用した授業を展開する。

《授業外学習》

子どもと関わる機会を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について興味を持ち、「言葉」の発達について理解を深めるように意識する。
より多くの絵本に触れ、絵本のレパートリーを増やす。

《テキスト》

『新・保育と言葉』石上浩美編著 嵯峨野書院 2022年

《学習状況・理解度の確認》

分からないことがあれば、授業終了後に質問を受け付ける。

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 2018 他 適宜、授業内で紹介する。

《備考》

視聴覚教材等ICTを活用した授業およびディスカッション・プレゼンテーション・グループワーク等のアクティブラーニングの要素を含む授業を展開する。 保育実践教室で授業を実施する場合もある。 担当者は、幼稚園・保育園の保育実践の経験を活かし、授業実践者としての経験を活かす。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1 多様な他者を理解しようとする力	乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。
◎	1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、子どもの発達の姿と合わせて説明できる。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	子どもの発達における児童文化財の意義について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	50%
小テスト	0%
レポート	20%
発表・実技	10%
授業内課題	0%
その他 ()	20%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	領域「言葉」のねらいと内容とは 絵本の読み聞かせの意義について	テキスト通読	45分
2	保育の基本と言葉の獲得に関する領域「言葉」	保育内容「言葉」のねらいと内容を理解し、保育者の役割を知る。	テキスト通読	45分
3	乳児期の言葉の発達	乳児期の「言葉」の発達段階と他者との関わりを知る。 乳児向けの絵本について学ぶ。	テキスト通読	45分
4	幼児期の言葉の発達①	幼児期の「言葉」の発達段階を知り、生活や遊びの中の「言葉」を理解する。 幼児向けの絵本について学ぶ。	テキスト通読	45分
5	幼児期の言葉の発達②	話し言葉から書き言葉の獲得のプロセスについて学ぶ。	テキスト通読	45分
6	手段・道具としての言葉	言語的コミュニケーションとしての「言葉」を理解し実践する。オノマトペや動きを誘発する言葉の具体例について学ぶ。	テキスト通読	45分
7	言葉の獲得に関する領域「言葉」と他領域との関係①	身体機能の発達と「言葉」について学ぶ。 知覚・認知機能の発達と「言葉」について学ぶ。	テキスト通読	45分
8	言葉の獲得に関する領域「言葉」と他領域との関係②	人間関係の発達と「言葉」について学ぶ。 世界環境の発達と「言葉」について学ぶ。	指導計画立案	45分
9	言葉の獲得に関する領域「言葉」の指導計画と評価	指導計画の種類や内容について理解し、指導計画を立案する。	指導計画加筆修正	45分
10	言葉の遅れのある子ども等に対する「言葉」の支援	言葉の遅れについて考える。 発達障害のある子どもに対する特別支援教育について学ぶ。	テキスト通読	45分
11	「言葉」の世界を広げる児童文化財	絵本・物語・紙芝居等の児童文化財の意義について学び、子どもに伝える際の留意点について知る。	テキスト通読	45分
12	これからの幼児教育の課題と保育内容領域「言葉」	保育・教育環境の現状と課題及び幼・保・小一体化に向けた取り組みについて知る。	テキスト通読	45分
13	創作絵本発表会①	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。	創作絵本の読み聞かせ練習	45分
14	創作絵本発表会②	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。	創作絵本の読み聞かせ練習	45分
15	学習のまとめと振り返り	授業の内容を振り返り、到達目標の達成度を確認する。	到達目標の達成度を確認する。	45分

《専門教育科目》

科目名	保育方法論			科目ナンバリング	55111A6700
担当者氏名	福田 規秀			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	0	・ 選択	開講年次・開講期
					1 年 ・ II 期

《授業の概要》

子ども理解を基礎として、資質・能力を意識した子どもの自由な活動を援助する保育方法の在り方について、討論を交えながら講義していく。環境を整えて保育を実践し、その反省・評価を適切にできる知識や技術を身に付けられるよう、現場映像等のメディア視聴をはじめ、遊具体験（毎回授業ははじめに行なう）、計画立案、事例検討等を交えた授業を行なう。

《テキスト》

『幼児教育方法論』（学文社 2019） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 2018）

《参考図書》

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府 文部科学省 厚生労働省 2018）
『保育所保育指針解説』（厚生労働省 2018） その他授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	子どもの特性を理解し、その成長・発達にふさわしい経験・体験を考えることができる。
		主体的な子どもの活動を引き出すには、教師の計画が重要であることを理解している。
○	2-2 自ら課題を解決しようとする力	生きる力の基礎を培うために掲げられた資質・能力を適切に育む保育の方法について、真剣に考えることができる。
		保育を行う上で道具立て（情報機器を含む）の重要性を理解し、それを活用する基礎を身に付けている。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 保育方法とは	①本講義の概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認 ①特別な方法があるわけではない	シラバスの熟読 教科書の購入	60分
2	保育方法の理念と概念	①資質・能力の意識②自らの保育観・子ども観の意識③道具立て	点検レポートへの取り組み	60分
3	保育方法の歴史（戦後）	①保育要領から現在まで②不確定な時代に向けて	点検レポートへの取り組み	60分
4	幼稚園教育要領等における教育・保育方法	①現在の要領等が目指すもの②資質・能力と10の姿	点検レポートへの取り組み	60分
5	子どもの理解と保育方法	①子どもの内面理解②保育事例から読み取れるもの	点検レポートへの取り組み	60分
6	環境を通しての保育	①様々な体験へ②豊かな体験を保障する環境構成	点検レポートへの取り組み	60分
7	遊びを通しての保育	①様々な表現の理解②様々な工夫の理解	点検レポートへの取り組み	60分
8	幼児の主体的な生活と保育	①学びに向かう子どもの援助②意図的・計画的な保育	点検レポートへの取り組み	60分
9	様々な保育形態	①自由保育VS一斉保育？②異年齢・同年齢保育③統合保育④プロジェクトアプローチ	点検レポートへの取り組み	60分
10	保育計画の実際	①全体的な計画②指導計画③カリキュラムマネジメント	点検レポートへの取り組み	60分
11	計画立案 保育における評価	①指導案の立案 ①記録②カンファレンス③ポートフォリオ他	点検レポートへの取り組み	60分
12	保育を活かすメディア	①オールドメディアから最新機器②メディアリテラシー③情報モラル	点検レポートへの取り組み	60分
13	保育者の役割、事例検討についてのグループワーク	①望ましい姿の意識②援助者、理解者、モデル③カウンセリングマインド④メディア視聴 ⑤グループワークの実施	点検レポートへの取り組み	60分
14	連携活動 諸外国の保育事例	①小学校との連携②家庭や地域との連携 ①レッジョ・エミリアでの実践②メディア視聴	点検レポートへの取り組み	60分
15	まとめ	①学習のふり返り（確認を含む） ②全体講評（質疑応答を含む）	自分の想い、事例対応の総点検	120分

《授業外学習》

次回講義の予告を行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。メモ等に基づき、講義内容を自分なりの方法でノートにまとめておくこと。適宜自習内容を言うので真面目に取り組むこと（実習で出会った遊具についてのレポートや保育実践を見ての感想、メディアを駆使した保育教材の探求等）。

《学習状況・理解度の確認》

分からないことは、オフィスアワー等を利用して、聞きに来ること。提出課題、筆記試験については、講義内で講評を行う。

《備考》

子どもとメディアについて柔軟に対応。講義に持参した遊具等は積極的に触る。グループワークへの積極的な参加、適切な出席・受講態度・事前準備・レポート提出等を心掛ける。英語名（Methodology of Curriculum）

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	70%
小テスト	
レポート	
発表・実技	
授業内課題	
その他（ ）	30%
合計	100%

科目名	保育内容・環境			科目ナンバリング	55132A131A
担当者氏名	中村 一美			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必選	0 ・ 選択	開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

現代の乳幼児期を取り巻く環境やその関わりについて専門的事項を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。環境を通して乳幼児の発達に即した深い学びが実現する過程を保育所、幼稚園、認定こども園等の実践事例を通して学ぶ。もの・人・自然・社会などの環境や環境の構成について興味関心を深めていき、領域「環境」に関わる指導場面を想定し、保育内容を構想する力や指導方法を身に付ける。

《テキスト》

『環境指導法』小櫃智子 編著 わかば社 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び各要領解説書

《参考図書》

『保育内容 環境』秋田喜代美 増田時枝 安見克夫 編 株式会社みらい 『事例で学ぶ保育内容 環境』無藤隆監修 萌文書林

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	社会は様々の人で構成されている(人種・男女・性格・大人・子どもなど)保育は他者の理解から始まることを学ぶ。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	保育士とは育児の専門家であり、その為の基礎的知識や技術を身に付け実践の場で生かすことができるようになる。
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	育児の専門家として、実践を何度も繰り返し習熟をし、自己の力を高めていく。

《授業外学習》

幼児教育は「環境を通して行う教育」が基本である。環境に対する豊かな感受性が育まれるように、特に自然環境、またその他身の回りの環境にたえず関心をもち、領域「環境」への学びを深める。

《学習状況・理解度の確認》

身近な環境に興味関心が広がるように課題学修を実施する。実践事例を通して、ディスカッションやグループワークをし、他の学生の意見を聞いたり発表したりする中で考えを深めていく。

《備考》

・現代の乳幼児を取り巻く環境に興味関心をもち、日頃から情報収集に努める。 ・担当者は園長経験のある実務経験者

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	50%
小テスト	0%
レポート	30%
発表・実技	0%
授業内課題	0%
その他 ()	20%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業概要、授業の目標、授業方法 評価方法などの説明	第1章「子どもと環境」について	45分
2	保育内容・領域「環境」	領域「環境」の理解を深める。「環境を通して行う保育」の意義について学ぶ。	第2章保育内容・領域「環境」に	45分
3	保育内容・境域「環境」の展開	1歳以上3歳未満児における領域「環境」の展開、3歳以上児における領域「環境」の展開について学ぶ。	第3章保育内容・領域「環境」の	45分
4	保育の過程	子ども理解に基づく、保育の計画、指導案の作成、実施、保育の評価と省察について学ぶ。	第4章 保育の過程について学ば	45分
5	ものとのかかわりの実践	園生活の中で乳幼児の身近にあるものと子どものかかわりについて学ぶ。	part 2 第1章 ものとのかかわ	45分
6	自然とのかかわりの実践	子どもと自然とのかかわりの意義を認識し、その実践方法や援助の在り方を学ぶ。	第2章 自然とのかかわりの実践	45分
7	自然とのかかわりの実践	多様な遊びや活動が広がる植物とのかかわり、生命の尊さに気づき生き物をいたわり大切にするかかわりについて学ぶ。	第2章 自然とのかかわりの実践	45分
8	自然とのかかわりの実践	砂、泥、水などの変化を楽しむかかわりについて学ぶ。	第2章 自然とのかかわりの実践	45分
9	数・量・図形とのかかわりの実践	子どもが、生活の中で数量や図形に関心をもち生活に取り入れていくような援助を学ぶ。	第3章 数量・図形とのかかわり	45分
10	標識・文字とのかかわりの実践	子どもの標識・文字とのかかわりを支える援助について学ぶ。	第4章 標識・文字とのかかわり	45分
11	身近な情報とのかかわりの実践	子どもたちが主体的に生活することができるような情報を環境の中に取り入れる方法について学ぶ。	第5章 身近な情報とのかかわり	45分
12	身近な施設・地域、様々な文化とのかかわりの実践	子どもと身近な施設・地域、様々な文化とのかかわりの実践について学ぶ。	第6章 身近な施設・地域、様々	45分
13	行事とのかかわりの実践	様々な文化や保育における行事とのかかわりについて考える。ICTを使った調べ学習	第7章 行事とのかかわりの実践	45分
14	遊びを通した総合的な指導の展開について	環境とかかわる場面を想定した指導計画を作成し、発表する。指導計画作成上の留意点を学ぶ。	第1章 遊びを通した総合的な指	45分
15	学修の振り返りと確認	学修の振り返り。今までの学びを確認し、領域「環境」における現代的課題について学ぶ。	第3章 領域「環境」にかかわる	90分